

書誌  
年鑑

2022

有木太一  
編

# 凡 例

## I 収録範囲

### 1 期間

日本で発表された各種の文献目録すなわち書誌のうち、2021年1月から12月までに発表されたもの、およびそれ以前の発表で『書誌年鑑』に掲載できなかったもの、合計9,242点(キーワード件数)と書誌解説13点を収録した。

### 2 内容

書誌は文献のリストなので、博物館などが編集・発行する動植物・鉱物の目録はもちろん対象外であるが、書誌の一分野である文書目録も対象外としている。近年地方・中央で多くの文書館が開設され、中世・近世・近現代の文書が多数発掘・保存される情勢となったので、本書では、文書目録の収集や目録化は、新しく大きく形成されてきた文書館界に任せるのが妥当だと考えている。本書収録の書誌は、文献探索上で書誌が必要とされる、人文科学・社会科学・生活科学の範囲のものにおおむね限られている。

### 3 採録

本書の編者が新刊の図書資料・雑誌から日常採録した書誌に、日外アソシエーツにおいて収集したデータから編者が選択・現物確認した書誌を加えている。

## II 配列方法

1 「書誌目録」では、上記の書誌記述から件名・人名・地名・誌名などのキーワードを選定し、その五十音順に配列している。

2 「書誌解説」では、本書収録の書誌から、主題・形式などに特色のあるものを選択した。配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

3 キーワード五十音順の配列においては、濁音・半濁音は清音とし、ヴ→ウ、ヂ→シ、ヅ→スとした。促音・拗音も直音とし、長音符(音引き)はアの前とした。

## III 記述形式

### 1 キーワード

第1キーワードはゴシック体で表示。第2キーワードは「⇔」の後に続けて明朝体で表示し、同一記述を第2キーワードの位置にも副出した。

### 2 図書単行書誌

『書名 副書名 巻次』 発行所名 ☆  
(著編者名) 発行年月 総頁数 判型

\*図書単行書誌では、書誌表示を☆印とした。

\*発行所名欄は下記のように省略した(以下3、4でも同様)。

○○大学 → ○○大 ○○短期大学 → ○○短大

○○教育委員会 → ○○教委

### 3 図書収録書誌

『書名 副書名』(著編者名) 発行所名 書誌表示  
<収録書誌編者名> 発行年月 始-終頁

### 4 雑誌掲載書誌

「誌名 巻・号=通号」 発行所名 書誌表示  
<掲載書誌編者名> 発行年月 始-終頁

\*雑誌全体の編者名(団体・個人)は省略した。

### 5 書誌表示

参考文献・引用文献・著書目録・著作目録・文献目録・業績・年譜など。長いものは短縮した。

### 6 頁記述

p: page f: front b: back r: random

pf: 前付部分に書誌があつて、頁付がない場合。

pb: 後付部分に書誌があつて、頁付がない場合。

pr: 前付・後付以外の部分に書誌があつて、頁付がない場合。

p1-3f: 前付部分に書誌があつて、頁付がある場合。

p1-3b: 後付部分に書誌があつて、頁付がある場合。

pr: 各章節末に書誌がある場合。

\*連載ものは初回の掲載頁のみを記載した。

## この本の使い方

### 1. アペリティフ

すでにご存じとは思いますが、書誌とは何であるかをまず確認しておこう。ざっくり言えば、書誌とは「本の選手名鑑」である。

野球やサッカーなどのプロスポーツ、あるいはAKBや坂道などアイドルグループには、「選手名鑑」「メンバー名鑑」といった本（ないし冊子）がある。運営会社など興行側でつくる公式本、一般の出版社や個人がつくる非公式本の別を問わず、スポーツなら各チームの選手について、アイドルならそのグループのタレントについて、プロフィールが紹介されている。単独で1冊にまとめられるほか、雑誌の特集記事や付録になったり、一部公営ギャンブルでは無料配布されることもある。

書誌はこれらと似ている。選手名鑑には、あるチームが試合で勝利することを目標として集められた選手の、氏名・出身地・生年月日・背番号・ポジション・身長・体重といった情報が出ている。これと同じように、書誌には、あるテーマを究明することを目標として集められた本の、書名・著者名・刊行年月・出版者（社）といった項目が掲載されている。チーム＝テーマに則って、選手＝本が紹介されている。書誌によって、あるテーマを明らかにするための本を知ることができる。

当『書誌年鑑』は、「書誌」というテーマに基づいて、書誌＝本の選手名鑑を集めた本。このことから“書誌の書誌”と呼ばれている。これにより、どんな「本の選手名鑑」が出ているかがわかり、あるテーマについて知りたい／調べたいと思った時に、どの本を読んだらよいかの指針となるのである。こうした用途を補うものとして、図書館にはOPAC（オンライン蔵書目録）が普及しているが、OPACではその館で所蔵しているものしか検索できないし、また隣接領域の文献がたまたま目に入るといっても生じないので、プラスアルファの効果は生まれにくい。

大学に入学すると、学術論文やレポートの作成についてオリエンテー

ションを受けると思う。そこでよく言われているのが、学術論文の脚注から芋づる式に参考文献を探し求めるというやり方である。ところが、この方法はかなりの労力を要する。脚注には参考文献以外の内容も含まれており、文献の書誌情報だけをまとめようとしても余計なノイズが多いからだ。そもそも「論文」にどのように行き当たればよいのか。

そういう時に、まず『書誌年鑑』を手にしていただきたい。書誌＝文献一覧がテーマ別に多数並んでいる。読者は文献を探索する際にまず本書を使うことで、芋づるをたぐり寄せるエネルギーが軽減できるのである。

というわけで、当『書誌年鑑』は、単に物事を知る・調べることから一歩進んで、よりクリエイティブに、イノベティブな論文やレポートを生産するための本であると言える。

### 2. プラ

『木綿のハンカチーフ』（太田裕美）や『ルビーの指環』（寺尾聰）など、数々のヒット曲で昭和・平成の時代を風靡した、作詞家の松本隆氏について調べてみよう。

本書『書誌年鑑 2022』で、見出し語「松本隆」を探してみると、431頁に1件が掲載されている。それを見ると、KADOKAWAから2021年10月に刊行された『風街とデラシネー作詞家・松本隆の50年』という本（田家秀樹著）の、518-519頁に「参考文献」という形で書誌が載っているとわかる。さらに、関連ありそうな「流行歌」も本書で引いてみると、468頁に5件見つかった。「作詞」「作詞家」などは見つからなかった。

今ここで出てきた合計6冊の本を読むだけでも、松本隆氏についてそれなりの知識は得られるのであるが、それでは本書を「使いこなした」とは言えない。本書で検索しても、書誌が掲載されていない本の情報は抜け落ちているからである。テーマ別にどんな文献が出ているかを知りたいだけなら、『日本件名図書目録』などテーマ別文献索引、あるいは図書館OPACのキーワード検索を使えば足りる。

本書の真の出番は、その先にある。本書は“書誌の書誌”であるので、今出てきた6冊の本には、必ず書誌、つまり文献一覧が掲載されている。

1冊手に取ってみると、そこにはその本を書くために著者が使った本が、参考文献一覧という形でズラリと並んでいる。6冊それぞれの書誌に掲載されている文献を総合し、自分が読まねばならない本（単行書だけでなく雑誌記事や論文なども含む）をリストアップする。これが、文献調査の始まりである。

リストアップした文献がまだ少ないと感じられた場合は、本書の過年度版を閲覧するとよい。『書誌年鑑』は1982年以降毎年刊行されており、さらに数年に一度の割で『人物書誌索引』『主題書誌索引』という2冊の蓄積版も発行されている。昨年版『書誌年鑑2021』にキーワード「松本隆」はないが、「流行歌」は5件ある。昨年版より前では、『2020』『2019』に「流行歌」のみ各3件、『2018』に「松本隆」1件と「流行歌」3件、『2017』に「流行歌」4件、『2016』に「流行歌」1件。これで、2015年以降に刊行された書誌は全てチェックできたことになる。2014年以前は蓄積版で検索できる。『人物書誌索引2008-2014』に「松本隆」はなかったが、『主題書誌索引2008-2014』に「流行歌」が19件発見される。そちらの書誌も参照すれば、さらに多くの文献が閲覧できるはずである。

さて、あるテーマに関して複数の書誌を検討していくと、どの書誌にも共通して掲載されている本があるのに気付く。これは、そのテーマについて調べる際に読んでおかなければ始まらない、どの著者も参照「せざるを得なかった」基本的な重要文献である。目標とするテーマについて、まずそうした本を探し出し、内容を徹底的に把握することにより、書こうとする論文に盤石な基礎が形成されることになる。

それ以外の文献は、バラエティに富んだ様々なものが掲載されている。中には、直接関係あると思えないような文献もあるが、こういった文献はすべて、論文に枝葉を茂らせるためのものである。たとえば、『書誌年鑑2018』に『阿久悠と松本隆』という本が出ている。この本の書誌には、松本氏の同業者、阿久悠氏に関する文献も多数収載されていると予想される。『狙いうち』『津軽海峡・冬景色』などで有名な阿久氏について知ることは、松本氏を把握するうえで有力な材料になるはずである。たとえばまた、『木綿のハンカチーフ』の時代背景を語るには、同曲ディレ

クターの出身地である筑豊について知ることが必要だ。となれば、福岡県の地理や歴史に関する本がもしあれば、そこに関していえば松本氏に関連した本ということになる。

あとは、書誌で見つけた文献を徹底的に調べ上げれば、力作の出現は近い。ここまで来れば、あなたはもはや松本隆氏の“第一人者”といえよう。

### 3. デセール

残念ながら、本書の存在はあまり知られていないようだ。この原稿を書く際、いろいろな大学の「論文の書き方」のようなwebページを複数見てみたが、本書に触れているものを発見することはできなかった。しかし、逆に言うと、存在の知られていない本書を活用することで、あなたはライバルに一步も二歩も差をつけることができるのである。

本書のような「書誌の書誌」は、欧米など諸外国では、国立図書館や最有力図書館学会の編集物であることが多いようだ。一方日本では、一介の個人編集者が細々と作り、それを志のある出版社が採算を度外視して刊行しているのが現状である。しかし今後、日本の学術や文化、とりわけ人文・社会分野においては、「書誌の書誌」を一瞥すれば、到達水準の高さが一目で読み取れるようになるであろう。過去の編者は、そう信じて本書を毎年編集してきたし、私もそのつもりでいる。末永くご愛顧を賜りたい。（有木太一）

## 【あ】

- |   |  |                                |                                 |
|---|--|--------------------------------|---------------------------------|
| アーカイブ<br>⇔文書館                           | 『アーカイブズ—記録の保存・管理の歴史と実践』(B. ガラン)                    | 白水社<br>2021.2                  | 参考文献<br>p1-4b                   |
| アーク溶接                                   | 『新溶接アーク現象』(溶接学会溶接法研究委員会)                           | 産報出版<br>2021.6                 | 参考文献<br>p240-248                |
| アートドキュメン<br>テーション                       | 『アート・ドキュメンテーション研究 29』<br>(JADS文献情報委員会)             | アート・ドキュメ<br>ンテーション学会<br>2021.5 | 文献目録<br>p61-74                  |
| アートマネジメ<br>ント                           | 『はじまりのアートマネジメント—芸術経<br>営の現場力を学び、未来を構想する』(松本<br>茂章) | 水曜社<br>2021.3                  | 参考文献<br>p38, 69-70,<br>186, 228 |
| アートマネジメン<br>ト ⇔地域開発                     | 『地域と芸術文化投資』(西田陽介)                                  | 大学教育出版<br>2021.5               | 参考文献<br>p158-164                |
| アートマネジメ<br>ント                           | 『文化事業の評価ハンドブック—新たな価<br>値を社会にひらく』(文化庁×九州大)          | 水曜社<br>2021.7                  | 参考資料<br>pr                      |
| アールデコ<br>⇔ポストモダン<br>ズム                  | 『アール・デコと英国モダニズム—20世紀<br>文化空間のリ・デザイン』(菊池かおりほ<br>か)  | 小鳥遊書房<br>2021.5                | Works Cited<br>pr               |
| アールヌーボー<br>⇔建築                          | 『失われたアールヌーヴォー建築』(小谷匡<br>宏)                         | リーブル出版<br>2021.11              | 参考文献<br>p206-207                |
| アーレント, H.                               | 『ハンナ・アーレント—<世界への愛>の物<br>語』(E. ヤング=ブルーエル)           | みすず書房<br>2021.3                | 著作一覧<br>p22-39b                 |
| アーレント, H.                               | 『嘘と政治—ポスト真実とアーレントの思<br>想』(百木漠)                     | 青土社<br>2021.4                  | 参考文献<br>p251-258                |
| アアルト, A.                                | 『アイノとアルヴァ二人のアアルト』(アル<br>ヴァ・アアルト財団)                 | 国書刊行会<br>2021.3                | 参考文献<br>p296-297                |
| IoT                                     | 『工場・製造プロセスへのIoT・AI導入と活<br>用の仕方 3版』                 | 技術情報協会<br>2021.1               | 文献<br>pr                        |
| IoT                                     | 『IoT通信性能解析』(蛭川忠三)                                  | コロナ社<br>2021.4                 | 引用参考文献<br>pr                    |
| IoT                                     | 『スッキリ! がってん! IoTの本』(安本慶<br>一ほか)                    | 電気書院<br>2021.10                | 参考文献<br>p121-126                |
| 相沢直樹                                    | 『青年期における対人恐怖傾向と自己愛傾<br>向に関する心理発達の研究』(相沢直樹)         | 風間書房<br>2021.1                 | 業績一覧<br>p237-238                |
| 会津八一                                    | 『小もの展—會津八一の蒐集からみるひと・<br>もの・こと』(椋橋彩香)               | 早稲田大<br>2021.12                | 参考文献リス<br>ト<br>p62-63           |
| 『愛生』1-14.7<br>(1931.1.31-<br>1944.7.15) | 『愛生—戦前編 復刻版 総目次・索引』                                | 不二出版<br>2021.7                 | ☆<br>197, 31p A5                |

アイゼンマン, P. ⇒ 山口隆	『アイゼンマンの建築論+QUANTUMET- RIC』(山口隆)	総合資格 2021.11	参考文献一覧 p320-323
間ふさ子	「福岡大学人文論叢 52.4=207」	福岡大 2021.3	業績 8pb
愛知学生会館	『愛知学生会館140年史』(愛知県育英会寮 史編集委員会)	愛知県育英会 2021.8	参照文献 p152-154
愛知県 ⇒ 障害児教育	『障害児教育福祉史の偉人伝—愛知の障害 児者支援への尽力』(小川英彦)	三学出版 2021.7	参考図書 p155-156
愛着	『入門アタッチメント理論—臨床・実践へ の架け橋』(遠藤利彦)	日本評論社 2021.10	引用文献 p222-246
愛着障害 ⇒ 心理療法	『メンタライゼーションを学ぼう—愛着外 傷をのりこえるための臨床アプローチ』(池 田暁史)	日本評論社 2021.6	文献 p185-190
ITガバナンス ⇒ 経営計画	『DX戦略立案書—CC-DIVフレームワーク でつかむデジタル経営変革の考え方』(D. ロジャース)	白桃書房 2021.1	参考文献 p297-308
ITガバナンス ⇒ システム監査	『実践IT監査ガイドブッカーフレームワー クからデータ分析、サイバー/クラウド監 査まで 改訂』(岩下廣美)	中央経済社 2021.3	参考文献 p501-506
アイデンティティ	『モダニティと自己アイデンティティー後 期近代における自己と社会』(A. ギデン ズ)	筑摩書房 2021.8	文献 p421-423, 453-455
アイデンティティ ⇒ コミュニケー ション	『コミュニケーション・スタディーズ—ア イデンティティとフェイスからみた景色』 (末田清子)	新曜社 2021.10	引用文献 p9-25b
愛南町(愛媛県) ⇒ 遺跡・遺物	『愛南町内遺跡 2 平城貝塚』	愛南町教委 2021.3	参考文献 p272, 273, 285-286
アイヌ ⇒ 樺太	『樺太アイヌ民族誌—その生活と世界観』 (大貫恵美子)	青土社 2021.1	文献案内 p1-17b
アイヌ	『近現代北海道とアイヌ民族—和人情の 諸相』(東村岳史)	三元社 2021.2	参考文献 p252-263
アイヌ ⇒ 工芸美術	『札幌の木彫り熊』(荒木繁ほか)	北海道大 2021.3	参考文献 p171-172
アイヌ ⇒ 伝記	『松浦武四郎近世蝦夷人物誌』(高木崇世芝)	北海道出版企画セ ンター 2021.6	研究 p286-292
アイヌ	『アイヌ通史—「蝦夷」から先住民族へ』(R. シドル)	岩波書店 2021.7	参考文献 p379-397
アイヌ ⇒ 北海道史	『アイヌからみた北海道150年』(石原真衣)	北海道大出版会 2021.9	参考文献 p15, 106-107, 119
アイヌ語	『18世紀アイヌ押韻文—ルウェサニウンク ル叙事詩その頭脚韻と不完全韻』(丹菊逸 治)	北海道大 2021.3	引用文献 p26-27

アイヌ語	『アイヌ語調査資料のデータベース化に 関する基礎的研究 10』(佐藤知己)	北海道大 2021.3	参考文献 p211-212, 214
アイヌ語 ⇒ 登別市	『ヌブルベッ—登別川の地名由来 2版』(小 坂博宣)	クルーズ 2021.8	参考文献 p132-134
アイルランド ⇒ 妖精	『アイルランド妖精物語』(高畑吉男)	戎光祥出版 2021.7	参考文献ほか p234-232
アイルランド文学	「イェイツ研究 51」	日本イェイツ協会 2021.2	書誌 p60-71
アウグスティヌス, A. ⇒ バスカル, B.	『バスカルと聖アウグスティヌス 下』(P. セリエ)	法政大出版局 2021.11	参考文献 p2-11b
青木真美	「同志社商学 73.2」	同志社大 2021.9	著作目録 p634-636 (886-888)
青木木米 ⇒ 宮崎市定	『素朴と文明の歴史学—精選・東洋史論集』 (宮崎市定)〈R. ピアソン〉	講談社 2021.11	参考文献 p423-424
青木豊	『中近世和鏡の研究』(青木豊)	雄山閣 2021.3	著者文献一覧 p307-310
青野覚	「法律論叢 93.4・5」	明治大 2021.1	業績 p4-12f
青森県 ⇒ 巫者	『津軽のイタコ』(笹森建英)	錦正社 2021.4	引用参考文献 p189-195
青森県史 ⇒ 部落問題	『北の被差別の人々—「乞食」と「革師」』 (浪川健治)	解放出版社 2021.6	参考文献 p339-343
青森県史 ⇒ 地方選挙	『戦後青森県の市長選挙と歴代市長』(藤本 一美)	北方新社 2021.11	参考文献 pr
青柳篤恒	「専修法学論集 142」〈前川亨〉	専修大 2021.7	著述活動 p1-51b
青山忠正	「歴史学部論集 11」	佛教大 2021.3	著作ほか p81-87b
青山英幸	「アーカイブズ学研究 35」	日本アーカイブズ 学会 2021.12	業績 p143-147
赤石山脈 ⇒ リニアモー ターカー	『リニアが壊す南アルプス—エコパークは どうなる』(「ストップ・リニア! 訴訟」原 告団南アルプス調査委員会)	緑風出版 2021.4	参考文献 p110-111
赤磐市 ⇒ 弥生時代	『2000年前の吉備—なぜ弥生人は丘の上に 住んだのか—山陽団地遺跡発掘50周年赤磐 市史跡シンポジウム』	赤磐市教委 2021.2	引用参考文献 pr
赤城さかえ	『評伝赤城さかえ—楸原・波郷・兜太に愛 された魂の俳人』(日野百草)	コールサック社 2021.7	参考文献 p256-260
赤瀬美穂	「甲南大学紀要 文学編 171」	甲南大 2021.3	業績一覧 p326-327
赤松啓介	『赤松啓介—民俗学とマルクス主義と』(岩 田重則)	有志舎 2021.10	参考文献 p307-325

# 書誌解説

医療／マンガ 『日本の医療マンガ50年史—マンガの力で日本の医療をわかりやすくする』（日本グラフィック・メディスン協会） SCICUS 2021.5 338p B6

マンガの中でも特に「医療」をテーマにした110作品を取り上げた本。編者は2018年に設立されたばかりの一般社団法人である。グラフィック・メディスンとは、2007年にイギリスで生まれた新しい概念で、医療従事者と患者が円滑にコミュニケーションできることを求めるムーブメントであるという。日本では国民皆保険制度とマンガ文化を背景として医療マンガが大きく発展を遂げており、マンガの力で日本の医療をわかりやすくしたい、としている。

本書は大きく分けると二部構成で、そのうち核心となるのがPart1「日本の医療マンガ50年史作品レビュー」である。Part1は「医療マンガへの招待」と題する解説の後「1970年代～1980年代」「1990年代～2000年代」「2010年代～」「海外の医療マンガ」の4章を置き、1～4章でそれぞれ10点・35点・55点・10点、合計110点を紹介している。個別の作品を紹介するページは2段組み。冒頭に書影を置き、その下に作品名と最大40字程度の内容紹介を配する。次いで、書誌内容をキーワード・作者・作品・初出・単行本と記し、その後に「作品概要」と「『医療マンガ』としての観点」という二本柱の文章が置かれている。書誌内容のうち、「初出」は多くが週刊・月刊などのマンガ雑誌に連載されることから、雑誌名と連載時期。「単行本」は雑誌連載をまとめて出版した際の書名・出版社名・レーベル名・巻数・刊行年であり、出版形態に関する注記（「電子書籍版あり」など）もある。作品の解説は、巻末に出ている24名によって分担されている。マンガを研究する学者、編集者や博物館学芸員など、マンガに造詣の深い人が多いようだ。

日本における最初の本格的な医療マンガは、1970～71年に『ビッグコミック』（小学館）で連載された、手塚治虫の『きりひと讃歌』であるという。本書Part1第1章もこの作品で幕を開ける。医師免許を持っていた手塚は、この作品の後1973年から、累計1億7000万部を超える医療マンガ最大のベストセラー『ブラック・ジャック』を発表して金字塔を打ち立てた。第2章では『おたんこナース』『JIN』『医龍』など、第3章では『コウノドリ』『透明なゆりかご』『フラジャイル』など。第4章は、海外の作品で日本の出版社から出版された『大発作』『フォトグラフ』など。古いものから新しいものまで、有名無名を問わず多くの作品が紹介されているが、これが決定版百選というわけではなく、医療マンガとは何か読者と一緒に考えていく布石となるものを目指したという。

110作品は、編集部で用意した150点ほどの中から執筆者が選択したものが主だが、執筆者から提案されたものもあり、（必ずしも医療に特化していない）マンガ研究者や

◎配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

◎解説者 （ ）内は新旧関係機関など

有木太一（本書編者）

鈴木一正（元国文学研究資料館）

増井ゆう子（国文学研究資料館）

水村里都代（東京農業大学第一高等学校・中等部）

編者略歴

有木 太一（ありき・ふとし）

1968年生、早稲田大学第二文学部卒。深井人詩氏に師事して、在野の書誌研究者となる。2016年版から中西裕氏のもと『書誌年鑑』の編集に加わり、中西氏勇退後の2018年版から編集を引き継いだ。「最近の書誌図書館関係文献」（日外アソシエーツHP）毎月連載。

---

## 書誌年鑑 2022

---

2022年12月25日 第1刷発行

---

編 集／有木太一

発 行 者／山下浩

発 行 行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

---

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

---

©ARIKI Futoshi 2022

不許複製・禁無断転載

〈落丁・乱丁本はお取り替えいたします〉

〈中性紙北越淡クリームキンマリ使用〉

ISBN978-4-8169-2946-5

Printed in Japan, 2022